

関東甲信越静岡社会教育研究大会神奈川大会第3分科会事例発表原稿案（5稿 R7.10.30）

1.はじめに



^{みな}
皆さん、こんにちは。

これから、^{かながわけん} 神奈川県の^{さむかわまち} 寒川町の^{じれいはっぴょう} 事例発表を^{おこな} 行います。

^{わたし} 私は^{さむかわまちしゃかいきょういくいいん} 寒川町社会教育委員の^{もり} 森です。よろしく^{ねが} お願いいたします。

（寒川町教育委員会生涯学習課の山口です。よろしく
お願いいたします。）

(97文字)

(1) 寒川町の概要



まず、^{さむかわまち}寒川町について^{しょうかい}紹介させていただきます。

^{まち}わが町は古くから^{ふる}相模国^{さがみのくに}一之宮^{いちのみや}である^{さむかわじんじゃ}寒川神社^{もんぜんまち}の^し門前町として知られております。

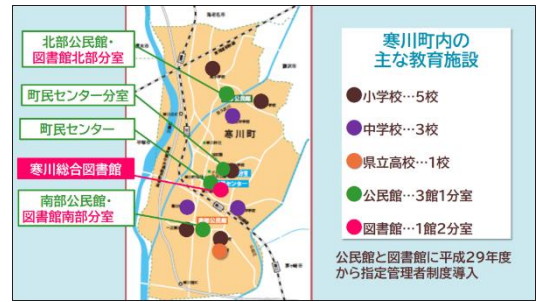
また、^{ちょうない}町内には^{きゅうせつきじだい}旧石器時代の^{いせき}遺跡^{たいこ}など、^{むかし}太古の昔から^{ひとびと}人々が^{せいかつ}生活していた^{そくせき}足跡^{のこ}が残っています。

^{とうきょう}東京から50キロ、^{よこはま}横浜から30キロ^{けんない}圏内、^{かながわけん}神奈川県^{ちゅうおう}中央を流れる^{なが}相模川^{さがみがわ}左岸^{りっち}という立地から、^{ちょうない}町内には^{しょうわ}昭和30^{ねんだいなか}年代半ばから^{こうじょう}工場が^{あいつ}相次いで^{しんしゅつ}進出しました。

それに^{ともな}伴い^{たくちかい}宅地開発も^{すす}進み、^{じんこう}人口も^{ぞうか}増加し、^{れいわ}令和7年9月^{ねん}現在では^{げんざい}48,262人と^{にん}神奈川県内^{かながわけんない}で^{もっと}最も^{じんこう}人口の^{おお}多い^{まち}町となっています。

また^{りっちじょうけん}立地条件^いを生かした^{としがたのうぎょう}都市型農業^{まち}の町として、^{しせつ}施設^{えんげい}園芸^{はな}や^{さいばい}花の栽培^{さか}も^{おこな}盛んに行われております。

(278 文字)



ちょういき とうざい なんぼく めんせき
町域は東西2.9キロ、南北に5.5キロ、面積は13.42
へいほう へいたん ちけい まち
平方キロメートルで、おおむね平坦な地形のコンパクトな町
です。

まち なんぼくほうこう はし さがみせん たいしょう ねん
町の南北方向に走るJR相模線は、大正10年にまず
ちがさき さむかわ あいだ かいつう げんざい ちょうない えき
茅ヶ崎と寒川の間で開通し、現在は町内に3つの駅があり、
ちょうみん あし りょう
町民の足として利用されています。

けんおうどう じゅうかんだうろ かいつう へいせい ねん
また、圏央道の「さがみ縦貫道路」が開通し、平成25年
ちょうない しょ こうそくどうろ もう
に町内に2か所の高速道路のインターチェンジが設けられ
たことにより、こうつう りべんせい こうじょう
たことにより、交通の利便性が向上しました。

ちょうない おも きょういくしせつ しょうかい
それでは、町内の主な教育施設を紹介します。

しょうがっこう こう ちゅうがっこう こう けんりつこうこう こう こうみんかん
小学校が5校、中学校が3校、県立高校が1校、公民館
かん ぶんしつ としょかん かん ほんぶ なんぶ こうみんかん
が3館と分室が1つ、図書館が1館と北部・南部の公民館の
なか としょかんぶんしつ
中に図書館分室が2つあります。

さむかわまち こうみんかん としょかん へいせい ねんど していかんりしゃ
寒川町では公民館と図書館に平成29年度から指定管理者
せいど どうにゅう みんかんじぎょうしゃ かんりうんえい おこな
制度を導入し、民間事業者が管理運営を行っています。

(336文字)

2. 寒川町の社会教育委員の活動



さむかわまち　しゃかいきょういくいいん　げんざい　めい　かつどう
寒川町の社会教育委員は、現在10名で活動しています。

いいん　しょうがっこう　ちゅうがっこう　こうちょう　しゃかいきょういくかんけいだんたい
委員には小学校と中学校の校長、社会教育関係団体
あるPTAと婦人会と文化連盟からの推薦者、公民館の講座
きかく　おこな　こうみんかんしょうがいがくしゅうすいしんいん　こうみんかんこうぎ
企画などを行う公民館生涯学習推進員、公民館講座など
しどうしゃ　かい　がっこうきょういく　しゃかい
の指導者、おはなし会ボランティアといった学校教育、社会
きょういく　かていきょういくしえん　たずさ　かんけいしゃ　こうせい
教育、家庭教育支援に携わる関係者で構成しています。

(154文字)

2. 寒川町の社会教育委員の活動

- 社会教育委員の構成(10名)
小学校・中学校の校長…2名
社会教育関係団体(PTA・婦人会・文化連盟)からの推薦…3名
家庭教育支援に携わる者(おはなし会ボランティア)…1名
公民館生涯学習推進員、公民館講座指導者、公募委員…4名
- 社会教育委員会議が公民館運営審議会、図書館協議会の機能を兼務
- 公民館と図書館で指定管理者制度を導入しているため、地域のニーズを取り入れて検討する体制として、社会教育委員会議の中に**公民館部会、図書館部会**を設置。

また寒川町では、社会教育委員会議が公民館運営審議会、図書館協議会の機能を兼ねております。

先ほど、公民館と図書館で指定管理者制度を導入していると述べましたが、この両施設のあり方について、地域のニーズを取り入れて検討する体制として、社会教育委員会議の中に公民館部会、図書館部会を設置しています。

それぞれの部会では公民館と図書館の館長が出席して、事業計画や実施した事業の報告の説明を行っています。公民館と図書館の事業づくりを民間事業者まかせにせず、社会教育委員が意見や質問をすることで、地域の声が反映されることとなります。

(258 文字)

2. 寒川町の社会教育委員の活動

公民館部会 (5名)・図書館部会 (5名)

- 公民館や図書館の活動に関するテーマを協議

令和6・7年度の公民館部会・図書館部会の共通協議テーマ

『地域学校協働活動の推進』

- ➡ 地域学校協働活動の取組のひとつとして
地域における家庭教育支援は重要な活動である

各部会では公民館や図書館の活動に関連するテーマを設けて協議をしておりますが、令和6年度・7年度は両部会の共通テーマで、地域学校協働活動の推進について協議を続けています。

寒川町では現在すべての小・中学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとなっております。

地域側の体制づくりとしての地域学校協働本部と推進員の設置はまだ行われておりません。

学校と地域が目指す姿や目標を共有して、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるために、今後どのように地域学校協働活動を推進していくか、社会教育委員として提言書を作るために、現在は協議を重ねているところです。

地域学校協働活動の取組の一つとして、地域における家庭教育支援も重要な活動であると考えます。

(323文字)



近年^{きんねん}の子どもをとりまく^こ状況^{じょうきょう}は、不登校^{ふとうこう}、いじめ、貧困^{ひんこん}など、社会構造^{しゃかいこうぞう}の変化^{へんか}を背景^{はいけい}として、多様化^{たようか}、複雑化^{ふくざつか}しています。

また、核家族化^{かくかぞくか}や地域^{ちいき}のつながりの希薄化^{きはくか}により、子育て^{こそだ}家庭^{かてい}が孤立感^{こりつかん}を抱え^{かか}、子育て^{こそだ}への悩み^{なや}や不安^{ふあん}が共有^{きょうゆう}できない^{じょうきょう}状況^{みう}も見受けられます。

そのためにも、地域社会^{ちいきしゃかい}で家庭教育^{かていきょういく}を支援^{しえん}し、仲間^{なかま}とつながる^{きかい}機会^{とも}をつくり、共に^{まな}学び合う^あ環境^{かんきょう}づくりが重要^{じゅうよう}で、ここに^{しゃかいきょういく}社会教育^{ちから}の力^{きたい}が期待^{きたい}されています。

本日の事例発表^{ほんじつ}は「子どもの未来^{じれいはっぴょう}を地域^こで育てる^{みらい}～^{ちいき}公民館・図書館^{そだ}における家庭教育支援^{こうみんかん}の取組^{としょかん}～」をテーマに、寒川町^{かていきょういくしえん}での家庭教育支援^{じれい}の事例^{こうみんかん}として、公民館^{としょかん}と図書館^{としょかん}での活動^{かつどう}と、社会教育委員^{しゃかいきょういくいいん}がそれぞれ携^{たずさ}わっている活動^{かつどう}について紹介^{しょうかい}します。

(300文字)

3. 寒川町の家庭教育支援事業の取組

(1) 公民館事業



それでは、公民館事業の事例について紹介いたします。

子どもたちが健やかに心豊かに成長するためには、様々な学びを通じて、行動変容できる力を育むことが必要です。

新型コロナウイルスの感染が拡大した数年間は子どもの体験活動の機会は大幅に減少した時期もありました。

寒川町の町民センター、北部公民館、南部公民館の3館の令和6年度の講座・イベント・開放事業は149事業を行っており、その中で親子参加を含む幼児期、青少年期を対象とした事業は67事業で、全体の55%と約半数でありました。

各館において、様々な内容の講座・イベントを実施しています。その中から特徴的な事業をいくつか紹介させていただきます。

(291文字)



1つ目はグローバル教育推進につながる「さむかわイングリッシュ・キャンプ」です。

毎年夏休み期間中に、町内の小・中学校に勤務している外国人英語指導者であるFLT 8人に講師として指導してもらっています。

小学校1・2年生、3・4年生、5・6年生の3つのクラスに分かれて、英語での遊び体験や日常会話のロールプレイなど習熟度に合わせたメニューで実施しています。

さらに実践的な学習として、小学校4年生から6年生を対象にカフェテリア形式で、子どもたちが英語でサンドウィッチの具材を注文して、FLTと一緒に食べる講座「サマーランチ with FLT」が好評です。

また、同じく小学4年生から6年生を対象とした東京のお台場にある英語教育施設「Tokyo Global Gateway 東京英語村」への公募バスツアーも年1回実施しております。

英語への関心の醸成と、多文化共生への理解を深めるため、地域で学び・育む機会づくりをしています。

(381文字)



2つ目は子どもの主体性の醸成につながる北部公民館の「夏休み子どもフェスティバル」です。

近隣の小学校から子ども実行委員を募集し、公民館職員や公民館生涯学習推進員の大人と一緒にゲームなどの企画を考えています。

実行委員に毎年応募してくれる子もおり、企画のアイデアを出し、当日の運営に携わることで、子どもの主体性を育み、経験を積むことで頼もしい存在に成長しています。

またフェスティバルでは学区にある旭が丘中学校邦楽部による箏の演奏会も恒例となっています。

演奏会の時間帯は保護者や地域の人も来館して鑑賞することができ、曲の解説や演奏を中学生が行い、部活動の成果を地域で披露する良い機会となっています。

なお、この事業を参考に、令和6年度から南部公民館でも同様に「子どもフェスティバル」を開始し、近隣の小学校から子ども実行委員を公募しました。

今年は、近くにある県立寒川高校の合唱部や演劇部の生徒にも協力を得て、アトラクションを行ってもらうなど、異年齢交流の機会となりました。 (434文字)



3つ目は子どもへの多様な体験活動の提供です。

家庭の中だけでは子どもの体験活動の機会創出が難しい時代です。公民館講座で行う手芸や工作、自然観察など多様な学びの機会をどんどん活用してほしいと考えます。

その中でも、生活に密接した技術である料理教室は人気があります。

最近は共働き家庭も多く、親子でゆっくり料理を教えながらつくる時間がもてないという話や、学校の授業でも食物アレルギー対応などで、調理実習の機会が減っていると聞きます。

そのような現状からも公民館講座で子どもたちが調理方法について学ぶことはありがたいとの保護者の声も耳にします。

食育は、生きる上での基本であり、子どもの頃から食べることや調理をすることに関心を持ち、生活に根差した学びを実践できる場は重要であると考えます。

(337文字)

(2) 図書館事業



続いて図書館の事例を紹介させていただきます。

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現を高め、想像力を豊かなものにする、人生をより深く生きる力を身に付けるうえで欠くことのできないものです。

しかし、近年は子どもの読書ばなれが言われて久しく、わが町もその例外ではありません。子どもたちが本に親しむために、学校、家庭、地域が一体となり、読書活動を推進することが必要です。

(185 文字)



はじめに、子どもたちが本に親しむきっかけに注目すると、幼少期における最初の一步は、親が話してくれる語りや絵本であると考えます。

家庭で本に親しむことで、成長してからも読書習慣が身に付き、図書館に足を運ぶことに繋がります。

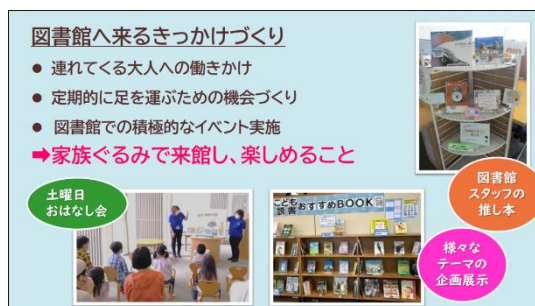
そのために、本の魅力を伝える活動はとても重要です。

図書館の事業ではありませんが、寒川町では7か月児健診で、お子さんに絵本をプレゼントするブックスタートを行っています。地域に生まれた赤ちゃんと保護者を対象に絵本を開いて読み聞かせをするなど楽しい体験とともに絵本を提供する活動です。

家庭で子どもにもっと絵本を読んであげたいけれども、どのような絵本を読んであげたらいいかわからないという悩みごとを助けるために、図書館では季節やテーマごとの絵本の企画展示を行っています。表紙が見えるように絵本を展示することで、手に取りやすく、知らない絵本と出会うきっかけとなります。

(388 文字)

子どもたち自身が図書館へ来るきっかけづくりとして、小学校低学年までは、両親、祖父母に連れられて図書館へやって来ることが多いです。



そのため、連れてくる大人への働きかけも重要です。

大人が図書館に来館しやすい機会を多く作ることが必要だと考えます。

定期的に足を運んでもらう機会のひとつに、おはなし会の開催があります。

乳幼児向けには「おひざにだっこのおはなし会」を毎月第1日曜日と第4水曜日に開催しており、図書館スタッフによる読み聞かせや手遊びなどを親子で楽しみます。

幼児から小学生向けには毎週「土曜日おはなし会」を開催しています。図書館スタッフとおはなし会ボランティアによる季節にちなんだ絵本の読み聞かせや紙芝居の実演をしております。

このほかにも図書館でイベントを積極的に行うことが来館促進には効果的です。5月の連休の「子どもハッピーデー」、秋の「図書館まつり」ではかるた遊びやクラフトづくり、読み聞かせといった子どもや親子で楽しめる内容で、家族ぐるみで来館する姿が多く見受けられます。(439文字)



子どもたちが自らすすんで読書をするきっかけづくりとして、関心を寄せるテーマを知ることは重要です。

町内の小学2年生は毎年授業で総合図書館見学を行っています。

その時に子どもたちから「こわい本はどこにありますか」という問い合わせを多いことから、夏休み期間に「おばけに関する本の展示」と「夏のこわ〜いおはなし会」を開催したところ大変好評でした。

子どもたちが物語でこわい話や不思議な話に親しむことは、情操を豊かにし、想像と現実とを区別する能力を育む大切なプロセスであると考えます。

子どもたち自身が読みたい本やテーマを取り入れて、図書館で本を展示することで、読書を楽しみ、図書館へ来る習慣を身につけてもらいたいと考えます。


(305 文字)

図書館のアウトリーチ活動

子育て支援センターへ図書館スタッフが
出向き、「出張わらべうた」を年3回実施。
参加した保護者から「図書館へ行ったこ
とがない」「図書館に赤ちゃん連れで行く
と、他の利用者に迷惑がかかるかもしれ
ない」という意見を聞き取り。

↓

親子で来館しやすいように総合図書館で
「月にいちどの赤ちゃんタイム」開始



また、図書館に来館してくれることを待つだけでなく、外に出て本の魅力を伝える活動も重要です。

図書館スタッフが子育て支援センターに出向いて乳幼児親子を対象に行う「出張わらべうた」を年3回実施しています。参加者に話をきくと、図書館へ行ったことがないという保護者が多いことがわかりました。

行かない理由を聞き取りしたところ、図書館で赤ちゃんが泣いたり、騒いだりしてしまうと、他の利用者に迷惑がかかるのではないかという不安があるという声がありました。

そこで赤ちゃん連れの方が気おくれせず、堂々と図書館に来られるきっかけづくりとして「月に一度の赤ちゃんタイム」を開始しました。おすすめの絵本や育児関連の本を並べて紹介し、希望に応じて図書館スタッフが読み聞かせや手遊びを行っています。この時間を楽しみに来館してくれる親子が増えています。

このように親子で読書に親しむことができる環境を整え、子どもが成長していく中で主体的に読書習慣を身につける支援することが、地域の学びの場である図書館事業の重要な役割となります。(447文字)

(3) 社会教育委員が携わっている事業



しゃかいきょういくいいん なか さき しょうかい こうみんかんしょうがい
社会教育委員の中には、先ほど紹介をした公民館生涯
がくしゅうすいしんいん いちいん
学習推進員や、おはなし会ボランティアの一員として
こうみんかん としょかん じぎょう きょうりよく いいん
公民館や図書館の事業に協力している委員もいます。

ほか ちいき だんたい こ たいけんかつどう たずさ
この他にも地域の団体として子どもたちの体験活動に携
わっている委員もいます。

ひ がっこう かてい かつどう
まず、PTAでは日ごろから学校と家庭をつなぐ活動を
おこな こうがい みまも ちいき きょうりよく か
行っています。校外での見守りなど地域の協力は欠かせ
ません。

ふじんかい まいとしなつやす しょうがくせいりょうりきょうしつ じっし
婦人会では毎年夏休みに小学生料理教室を実施してい
ます。おとな ちゅうい みまも ほうちよう ひ ちょうり
ます。大人は注意しながら見守り、包丁や火をつかう調理も
なるべく子どもたちだけで調理をさせる方針で行います。
じぶん つく たっせいかん こ せいちょう
自分で作ったという達成感が子どもの成長につながります。

ぶんかれんめい まいねんなつやす ぶんか ぶんか
文化連盟は毎年夏休みに「文化ふれあいデー」として文化
だんたい さまざま たいけんかつどう ていきょう じっし
団体が様々な体験活動を提供するイベントを実施していま
かぞく らいじょうしゃ おお おやこいっしょ たいけん ちいき
す。家族での来場者が多く、親子一緒に体験することで地域
ぶんかかつどう かんしん たか きかい
の文化活動に関心を高めてもらう機会となっています。

しゃかいきょういくいん めい たずさ なつ
また、社会教育委員3名が携わり、この夏に「たのしく
まな さむかわ れきし ぶんか しょうがくせいむ がくしゅうかい
学ぼう寒川の歴史と文化」という小学生向けの学習会を
じっし さむかわ れきし まな ほんもの じょうもん ど き
実施しました。寒川の歴史について学び、本物の縄文土器を
み おやこ ど き たいけん はじ ところ
見ながら、親子で土器づくりを体験しました。初めての試み
でしたが、おやこ いっしょ さむかわ れきし まな こうざ たいへん
親子で一緒に寒川の歴史を学べる講座は大変
こうひょう
好評でした。

(506文字)

4. 成果と課題



公民館と図書館の事業と、社会教育委員が地域で携わっている事業について紹介いたしました。

これらの事業が成功するために大切なことはまず必要としている人に情報を届けることです。

寒川町では子ども対象事業の情報提供手段を確立することで、一定の成果が出ております。

(126 文字)



まず、子ども向け事業の情報を知ることができる方法として、「子どものための生涯学習情報紙 すきっぷ」があります。

これは公民館や図書館だけではなく、町や関係団体などが主催する子ども対象事業を掲載している情報紙で、生涯学習課で作成しています。

町内の保育園、幼稚園、こども園、小学校を通じて年4回、毎号約4500部を配布しており、町内の子ども情報を発信するメディアとして定着しております。

子ども対象講座の参加者アンケートでは「すきっぷ」で情報を知ったという方が多く見受けられますが、発行日から遠い開催日の事業については、参加者が伸び悩む状況があります。

(271 文字)



その解決策として、近年力を入れていることは寒川町公式LINEでの情報発信の活用です。

現在約2万2千人の登録者がおり、申込開始日や開催日近くに情報発信できるメリットがあります。

公民館や図書館の講座も積極的に情報発信するようになったところ、配信直後に申込者が増えるなど一定の効果が出ています。

なお、寒川町の公式LINEの運用規則は、配信は原則正午に3件まで、配信する内容は画像1枚で見せる形式を推奨し、詳細はホームページを見てもらう方法を取っています。

LINEで情報発信を始めた頃は、町民から「町のLINE通知が頻繁でわずらわしい」との意見もありました。しかし、最近はお昼に届くものは寒川町からの情報であることが浸透してきており、「毎日、町の情報が届くので楽しい」という声もあります。

家族や友達が情報を見て、口コミで教える時にも情報共有がしやすいツールとなっています。

(381文字)



公民館や図書館の講座で定員のある場合は概ね参加申込の申し込みが必要ですが、子どもを対象とした講座の申込には近年は電子申請を積極的に活用しています。

以前は開館日の午前9時から午後5時までに窓口に出向くか電話で受付をしていましたが、共働き家庭の多い子育て世代には、申し込みが難しい状況がありました。

電子申請でスマートフォンやパソコンから24時間いつでも申し込みができることで、新たな利用者の獲得につながる成果が出ています。

なお、申込者が増えることは成果でもあり、課題でもあります。申込が多く見込まれる講座では抽選方式にしていますが、夏休みの講座では定員の3倍を超える申込もあります。

先着順の場合はリピーターが多い状況でしたが、抽選であれば先着順より申込者の裾野がひろがり、潜在的ニーズが高い企画内容であったことが申込者数という数値で見えるようになったことも電子申請導入の成果です。

(389文字)

5. まとめ

このように、^{ちいき}地域における^{かてい}家庭
^{きょういくしえん}教育支援の活動として、^こ子どもた

^{さまざま}ちに様々な^{まな}学びの^{きかい}機会を提供し、^{ていきょう}周知の工夫を^{しゅうち}続けて^{くふう}お^{つづ}り
ます。

しかし、^{こうみんかん}公民館や^{としょかん}図書館が^{ちか}近くにない^{かてい}家庭には、「^{そうげい}送迎など
の^{つごう}都合で^い行きたくても^い行けない」、「^い行きにくい^みため^{ぢか}身近に^{かん}感
じない」という^{かだい}課題があります。

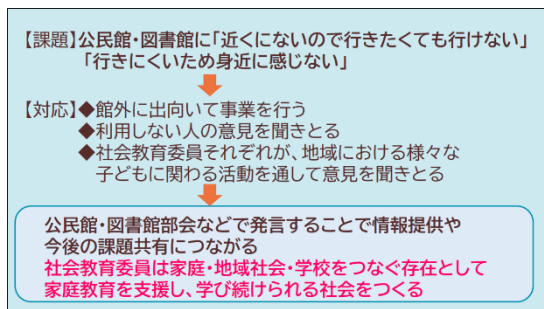
^{かいこう}コロナ禍以降、^{こうみんかん}公民館と^{としょかん}図書館の^{りようしゃ}利用者は^{いぜん}以前より^{げんしょう}減少
しています。

^{としょかん}図書館の^{じれい}事例で、^{こそだ}子育て支援センターに^{でむ}出向くアウトリー
^{かつどう}チ活動と^{りよう}利用しない^{ひと}人からの^{いけん}意見の^き聞き取りについて^と述べ
ましたが、^{こうみんかん}公民館も^{どうよう}同様です。

^{がっく}学区に^{こうみんかん}公民館のない^{ばあい}場合は、^{そんざい}存在を^し知られていなかったり、
^こ子ども^{ひとり}一人では^い行きにくかったり^{しょうがっこう}するため、その^{しょうがっこう}小学校か
^{さんかしゃ}らの^{すく}参加者が^{じょうきょう}少ない^{みう}状況も見受けられます。

^{こうみんかんこうざ}公民館講座も^{そと}外に出向いて^{でむ}事業を^{じぎょう}行うことや、^{おこな}利用しな
^{ひと}い人の^{いけん}意見も^き聞きとることが^{こんご}今後の^{かだい}課題であると^{かんが}考えます。
(350 文字)





このような課題については、社会教育委員もそれぞれ所属^{しよぞく}をしている団体や、ボランティア^{だんたい}として、子ども^こに関わる活動^{かつどう}をしていることから、社会教育委員^{しゃかいきょういくいいん}が聞きとった地域の意見^{ちいき いけん}を公民館^{こうみんかん}、図書館部会^{としよかんぶかい}などで発言^{はつげん}することで、情報提供^{じょうほうていきょう}や今後の課題共有^{こんご かだいきょうゆう}につながります。

社会教育委員^{しゃかいきょういくいいん}も家庭^{かてい}、地域社会^{ちいきしゃかい}、学校^{がっこう}をつなぐ存在^{そんざい}として、家庭教育支援活動^{かていきょういくしえんかつどう}を行い、すべて^{おこな}の人が学び続けられる社会^{ひと まな つづ しゃかい}をめざします。(183文字)



これをもちまして、寒川町^{さむかわまち}の発表^{はっぴょう}を終わります^お。

最後までお聞き^{さいご}くださり、ありがとう^きございました。

(46文字)

【合計：7205文字】